

ICU・超急性期における 重症患者の基礎評価

本講座を受講すると臨床で下記のような問題を解ける能力が身につきます。

Q 1

離床させるとき、尿量やCVPを注意して評価する必要があるのはどちらですか？

A さん・・・出血量 500ml。輸液は乳酸化リンゲル液が 2000mL。

B さん・・・出血量 500ml。輸液は 5%ブドウ糖が 5000mL。

Q 2

症例 50歳男性、脳出血のため3週間入院しています。意識はJCS II-30です。尿路感染を起こしたらしく、数日前から高熱がでていました。評価時、収縮期血圧が70mmHg、心拍数が120回/分です。手を触ってみると、とても温かいです。離床可能な状態に改善させるために医師が使用する薬剤はどれだと思いますか？

1. 輸液 2. 血管収縮薬 3. 強心薬 4. すべて

離床へのメリット

現在の患者さんの状態から投与されている薬剤を理解・予測することで正確な病態把握から離床のリスク管理へとつながります。



社団法人 日本離床研究会事務局

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-12 プラーレルビル 2F

TEL: 03-3556-5585 FAX: 03-6272-9683

Email: jsea@rishou.org HP: <http://www.rishou.org/>